

【文学部 学部間協定留学】留学報告書

記入日	2025 年 8 月 14 日	
所属	文学部/演劇学専攻(学科/専攻)	
留学(渡航)した時の学年	3 年生	
帰国年月日	2025 年 7 月 31 日	
明治大学卒業予定年月	2026 年 3 月	
留学先大学について		
留学先国	ドイツ	
留学先大学	アルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク (日本語名) Arbert Lutwig Universität Freiburg (現地言語名)	
現地使用言語/ 授業使用言語	ドイツ語/ドイツ語	
留学期間	2024 年 10 月～2025 年 7 月	
留学先大学で在籍した学年	1 年生	
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:	
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 10 月下旬～2 月下旬 3 学期: ～	2 学期: 4 月下旬～7 月下旬 4 学期: ～

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (€)	日本円	備考
授業料	0	0 円	学部間協定留学のため学費免除
宿舍費	4500	770000 円	ホームステイ
食費	2400	400000 円	
図書費	100	17000 円	
学用品費	20	3400 円	
携帯・インターネット費	70	12000 円	
現地交通費	96	16000 円	通学定期券(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	1500	257000 円	勉強旅行、美術館、博物館、観劇
被服費	40	7000 円	
医療費	25	4200 円	二度薬をもらう
保険費	1250	200000 円	形態:TK
渡航旅費	1500	250000 円	
ビザ申請費	75	12000 円	
雑費	46	8000 円	
その他		円	
その他		円	
合計	11,320€	1,940,000 円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田 目的地:フランクフルト 経由地:	
復路 出発地:フランクフルト 目的地:羽田 経由地:	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ANA 料金:130000 復路 航空会社:ANA 料金:120000 ∴合計:250000	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:ANA 公式アプリ) <input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)	
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)	
3)共有部分	
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
大学の寮に申し込むも抽選で外れる。その後 WG を使い数件にメールを送る	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
大学の寮に入るのが基本ですが入れない場合があることも想定しましょう。 私は出発前に住居が確保できず、とても不安でしたが、Airbnb で仮住まいしながら内覧先を2つ見つけました。	
現地情報	
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)	
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:学内の診療所)	
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)	
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等:)	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?	
防犯対策として貴重品ケースを腰に巻く、スマホを首から下げる紐をつける 盗難被害などはなし	
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)	
ALDYTALK を使用し、毎月ごとに通信料をプリペイド式で払っていました。 大学、図書館では WIFI 接続が安定してるので、そこでパソコンを使用していました。	
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
日本で作ったクレジットカードを使っていました。	
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。	
箸、ホッカイロ、常備薬、簡易的なお米、	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
38 単位		<input type="checkbox"/> 11 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Geschichte der Massengewalt im 20. Jahrhundert		20 世紀の集団暴力の歴史
科目設置学部・研究科	歴史セミナー	
履修期間	2024 冬学期	
単位数	4	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回	
担当教授	Jan Eckel	
授業内容	20 世紀の集団暴力、独裁、戦争の歴史を詳しく学びました。日本の昭和天皇についての言及もありました。	
試験・課題など	期末レポート	
感想を自由記入	留学生向けの授業ではなかったため、難しい部分もありましたが、頑張って毎回出席していました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Friedrich Nietzsches mittlere und spät Schriften		ニーチェの中期から後期にかけての作品群
科目設置学部・研究科	哲学セミナー	
履修期間	2024 冬学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 2 回	
担当教授	Andreas Sommer	
授業内容	ニーチェの中期から後期の作品を先生が紹介しながら、ニーチェの思想について学びました。ニーチェとリヒャルト・ワーグナーとの関係についても知れました。	
試験・課題など	期末レポート	
感想を自由記入	週に二回の授業で大変でしたが、積極的に取り組みました。期末レポートは、『ツァラトゥストラはかく語りき』、夏目漱石『吾輩は猫である』の語りの類似性について書き、単位を獲得しました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Sprachkurs		外国語 B1.2
科目設置学部・研究科	p コース	
履修期間	2024 冬学期	
単位数	8	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 2 回	
担当教授	Sabine Nagel	
授業内容	語学のコース。留学生向けの授業で、フランス、アメリカ、中国、スペインの生徒とともに参加していました。	
試験・課題など	プレゼンテーション、期末テスト	
感想を自由記入	最初は先生の言っていることを聞き取るのに苦労しましたが、最後はとてもよく理解できるようになりました。最後は、みんなでボードゲームをしました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Basiswissen Gramatik		ドイツ語基本文法
科目設置学部・研究科	ドイツ語セミナー	
履修期間	2025 夏学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 80 分が 1 回	
担当教授	Melanie Bosiger	
授業内容	ドイツ語の文法について、細かい部分までマスターできるクラスです。ドイツ人の友人も苦戦していたので、かなりレベルの高い文法を学んでいました。	
試験・課題など	毎週の復習テスト、期末テスト	
感想を自由記入	帰国の一週間前にテストがあり、テスト勉強が大変でしたが、テストは満足の行くできで良かったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Sprachkurs		語学のコース B2.1
科目設置学部・研究科	P コース	
履修期間	2025 夏学期	
単位数	8	
本学での単位認定状況	1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 2 回	
担当教授	Klara Braune	
授業内容	語学のコース。先生が質問すると丁寧に答えてくれました。	
試験・課題など	プレゼンテーション、期末テスト	
感想を自由記入	やる気のある生徒、ない生徒の差があり、また語学レベルにも差がありました。文法知識に疎くても、ドイツ語を喋るのは流暢なアメリカの学生がいて、勉強は文法をまなぶだけではないのだと改めて実感しました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Theater in Deutschland		ドイツの演劇
科目設置学部・研究科	P コース	
履修期間	2025 夏学期	
単位数	4	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回	
担当教授	Isabel Rothe	
授業内容	ドイツの演劇史、劇場について学びました。古典から現代演劇まで。 テストではドイツ語で論述する問題が複数出ました。	
試験・課題など	中間・期末テスト、三回のプレゼンテーション	
感想を自由記入	授業評価の方法がかなり厳しく、緊張感の多い授業でした。個人プレゼンでは、ベルリンの観劇体験について発表して高評価をいただきました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Deutschland in kurzen Geschichten und Filmen		短編小説と映画に見るドイツ
科目設置学部・研究科	P コース	
履修期間	2025 夏学期	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回	
担当教授	Hans Overmann	
授業内容	ドイツ語圏の映画と文学史について学びました。レッシングやハイネの作品を授業内で読みました。	
試験・課題など	中間・期末テスト、プレゼンテーション	
感想を自由記入	受講生が多く、グループプレゼンをきくことができました。先生のドイツ語がとても聞きやすかったです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Kreatives Schreiben II		創造的な作文	
科目設置学部・研究科	P コース		
履修期間	2025 夏学期		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回		
担当教授	Sabine Nagel		
授業内容	先生が決めた自由で独創的なテーマから好きなようにドイツ語作文をして自己表現をしようという授業。女子学生のみで、とてもあたたかく楽しい雰囲気でした。		
試験・課題など	毎回の作文提出、期末作文発表		
感想を自由記入	カフカの『変身』にインスピレーションをうけて、自分なりに『変身』物語をかきました。視点を考えるのが楽しかったです。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input checked="" type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
10 月 2 日に可否発表
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
研究計画書を書くタイミングが留学期間にかぶっている場合、計画的な戦略をたてる必要があります。 私は 7 月中旬の研究計画書提出と留学先の期末テスト期間がかぶっていたので、できるだけプレゼンテーションの発表や研究旅行を6月までに終わらせました。試験科目をよく確認し、留学先で使う第1外国語以外に、第2外国語の勉強も考慮しましょう。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1 月 ～ 3 月	第 2 外国語(ドイツ語)期末テスト勉強
	4 月 ～ 7 月	第 2 外国語(ドイツ語)期末テスト勉強
	8 月 ～ 9 月	とくになし
	10 月 ～ 12 月	留学希望決定、研究計画書提出、パスポート入手
留学開始年	1 月 ～ 3 月	学部間協定留学決定
	4 月 ～ 7 月	ドイツ語会話練習開始、独検2級取得、入学手続き、学生ビザ申請
	8 月 ～ 9 月	留学準備: 航空券手配、学生ビザ取得、家さがし、インフルエンザ予防接種
	10 月 ～ 12 月	留学開始、家の内覧、滞在先確保、引っ越し
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	胃腸炎罹患で通院、期末レポート執筆
	4 月 ～ 7 月	中間試験、プレゼンテーション、帰国準備
	8 月 ～ 9 月	大学院入試勉強、受験
	10 月 ～ 12 月	卒業論文執筆

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

この留学先(フライブルク大学)を選んだ理由は、文化的・歴史的な魅力が多くあったことです。大学の設立は 15 世紀にさかのぼり、本キャンパスでは今でもゴシック建築の荘厳なつくりを感じることができます。一方で本キャンパスの隣にはモダンな新しい図書館が併設されており、昼夜を問わず学生の語らい、勉学の間として機能しています。敷地内には、第二次世界大戦中に破壊されたシナゴグ跡があり、石碑には「Erinnern(忘れないで)」の文字が刻まれており、学生は、戦争の記憶を決してなくしてはいけないという教訓をここに見ることができます。また、フライブルク大学は 20 世紀ドイツ哲学の聖地でもあり、ハイデッガー、フッサール、ハンナ・アーレントなどの著名な学者たちの親交の場として有名です。大学を中心にアルトシュタットが広がる大学都市フライブルクは、オペラ劇場、小劇場、大聖堂などの文化的経験のしやすさに優れています。大聖堂の前には毎日早朝から 14 時まで市場が開かれており、街の人々との交流やフライブルクの伝統的なソーセージ「Lange Rote」を楽しむことができます。

留学生活では、ドイツ学生だけではなく、様々な国から来た留学生と関わる機会が豊富です。日本から見たドイツと、他のヨーロッパの国から見たドイツは異なっていて、各々の留学へのモチベーションやドイツに対する考えなどを交換しました。大学での学習に加え、私はホームステイ先のホストファミリーと毎日コミュニケーションをとっていました。最初は単語やイディオムがわからなくても、三ヶ月も会話を重ねるうちに、相手が何を言っているかがほぼ正確にわかるようになりました。これはきっと留学中に自然に習得できたスキルです。10 ヶ月間の留学は時としてホームシックを引き起こし、日本の食事や文化が恋しく感じるときもありましたが、そういうときは、日本で見るのが難しいゴシック様式のステンドグラスをじっくりと観察したり、大聖堂の音楽とコーラスをきいたりして、西洋にいたことの実感と貴重さを噛みしめるようにしていました。留学を終えてみると、それらの経験のすべてが尊いものであったことを改めて感じるとともに、留学期間を全うできたことへの達成感を感じます。

これから留学をするという方に伝えたいことは、「行ってみればなんとかなる」ということです。とくに海外で生活するのが初めてだという方や、一緒に渡航する仲間がいないという方は、留学前の私と状況が似ていて、きっと少なくない不安を抱えていらっしゃるかと思います。それでも、留学生活が始まると、想像していなかった出会いがあったり、自分を助けてくれる仲間が見つかるかと思います。積極的に行動を起こしていれば、困ったときに一人になることはありません。自分なりの留学生活をワクワクしながら想像してほしいと思います。